

マルは しあわせ

小川未明

青空文庫

マルは かわいい　ねこです。まあちゃんが　とても　かわいがって　いました。

「ねえ　おかあさん、マルが　おしろいくさいよ。」
と、まあちゃんが　いいました。

「どうしてでしょう。あんたの　はなの　せいじゃ　ない？」
と、おかあさんは　おつしやいました。

「マルや、ここへ　おいで。」

と、まあちゃんは　マルを　よびました。マルは　よろこんで、まあちゃんの　そばへ　きて、ころがりました。まあちゃんは、マルの　あたまを　かぎました。

「やっぱり おしろいくさいよ。」

「マル、どうして おまえは、おしろいくさいの?」

なんと きかれても、ねこですから ごへんじが できません。
「きつと、どこか おねえさんの ある おうちへ 行って、かわいがられて いるのでしょうか。」

と、おかあさんが おつしやいました。

「どこかしら。」

と、まあちゃんは かんがえました。

「ああ、こして きた あの おうちだよ。」

十日とおかばかり まえに、あちらの あたらしい 二かいやへ、こして きた おうちが ありました。そこには かわいらしい

女おんなの子こがいます。ことしから学がっ校こうへあがって、じぶんとおなじくみです。

あくる日ひのあさ、みちで、

「とめ子こちゃん、いっしょにいきましよう。」

と、まあちゃんがこえをかけました。

「ええ、いっしょにいきましよう。」

と、かけてきました。

「あそびにいらっしやい。」

「あんたもね。」

ふたりはなかよしになりました。

まあちゃんはとめ子こちゃんのおうちへあそびにいきま

した。

「まあちゃん、おはいり。」

と、とめ子^こちゃんは よろこびました。とめ子^こちゃんのおうちには、おねえさんが ふたり ありました。

「マルが あそびに くる？」

と、まあちゃんが きくと、

「まい^{にち}日 くるわ。」

と、とめ子^こちゃんが いいました。

「かわいい ねこね。」

と、おねえさんたちも いいました。マルは みんなに かわいがられて、しあわせだと、まあちゃんは おもいました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 16」講談社

1978（昭和53）年2月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

初出：「セウガク一年生」

1939（昭和14）年5月

※初出時の表題は「マルハシアワセ」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：Juki

2012年7月16日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

マルは しあわせ

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>